

IMRC 研究事業 文化庁アーカイブ推進支援事業

「村上知彦コレクションに基づくサブカルチャー史アーカイブモデルの開発」

「村上知彦コレクション」について

京都国際マンガミュージアムにおいて現在整理が進められている「村上知彦コレクション」（以下、村上コレクション）は、マンガ評論家・編集者として活躍されてきた村上知彦氏の所蔵する、マンガ文化を中心としながら領域横断的に広がる60年代以降の関西文化シーンが克明に記録された、膨大な一次資料群である。

村上コレクションにはマンガ史上において重要な役割を果たした60年代のマンガ誌『COM』の読者コミュニティ「ぐら・こん」の諸活動、70年代のミニコミ誌ブームのなかで発行された様々なミニコミ誌群および関連メディア、情報誌の草分け的存在『プレイガイドジャーナル』周辺のネットワーク、映画監督大森一樹らと展開した自主制作映画や上映会などの自主映画運動、そしてマンガにおける「ニューウェーブ」派の先駆けであった雑誌『漫金超』とその前身となった「チャンネルゼロ」の活動など、多種多様な文化シーンに関する記録が含まれている。横断的なサブカルチャー一次資料として、これだけのまとまった規模のものは希少であるという点において、その資料的価値はコミックマーケット代表であった故・米沢嘉博氏のマンガ同人誌をはじめとした収集資料群（現在は明治大学記念図書館所蔵）と同様に高いものである。

文化庁アーカイブ推進支援事業での整理作業

京都精華大学国際マンガ研究センターでは2016年度より文化庁アーカイブ推進支援事業の援助を受けつつ、同コレクションの整理事業を進めてきた（「村上知彦コレクションに基づくサブカルチャー史アーカイブモデルの構築」、担当研究員：雑賀忠宏）。この整理事業では、京都国際マンガミュージアムへの資料群の移送、そしてこうした文化シーンにまつわるいわば「雑多な」一

次資料群のデータベース的な整理だけでなく、事業のもう一つの柱として村上知彦氏のオーラルヒストリー調査を実施し両者を結びつけることによって、各資料の文化シーンにおける位置関係や有機的なつながりを利用者が追うことのできる、物語性を有した新しいアーカイブモデルの構築を目指している。

2019年度は文化庁アーカイブ推進支援事業に基づく整理作業の最終年度として、村上氏への補足的なインタビュー調査を実施しつつ、京都国際マンガミュージアムへ移送された「村上コレクション」資料のMM-OPACへの登録作業を中心として進めた。また、こうした整理作業およびインタビュー調査について、ウェブ上での公開や京都国際マンガミュージアムでの公開方法を検討・準備した。

（文責：雑賀忠宏）